

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 19

インド・釈尊あれこれ紀行



イトコリの仏教遺跡、千体仏が彫られた
黒いストゥーパ。拝む対象になっている



イトコリ

インド渡航歴40回超!

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.19



広場に造られた仏陀像と尼蓮禅河の支流となるモハネ河
(写真協力 トラベルサライ)



インド北部、ジャールカンド州のイトコリはビハール州に隣接し、ブツダガヤから南東80キロに位置する。イトコリの遺跡はインドの人にもあまり知られていない。

インドの考古学専門誌にもイトコリ遺跡にはヒンドゥー寺院と大きな池があるとしか記されていない。

しかし、訪れてみると戸外に屋根で守られた黒いストゥーパがあった。高さ2メートル弱、直径60センチぐらいで、回りには小さな仏像が彫られている、いわゆる千体仏で、拝む対象となっている。また、最近のもののように見えるが、仏陀像も造られている。

そして何より、イトコリそのものの地名は若き日の釈尊に由来している。

釈尊を育てた養母は、母であるマヤ夫人の妹、つまり叔母であるマハーパジャーパティで、彼女は最初の比丘尼といわれている。

その叔母は、シッダルダ王子、のちの釈尊、



仏像や仏塔などの発掘品が保管されている倉庫。その中にあった3本足の石像



の出家を止めようとこの地まで追ってきたが、王子の出家を止めることができなかった。そこで叔母は「彼を無くした」と大いに嘆いたという。

彼が「Ite Ite」、無くしたが「Khyoyee IIコイー」で、この嘆きの言葉が地名となったと伝わっている。

また、イトコリの近くを流れているモハネ河は、ブツダガヤを流れる尼蓮禪河の支流である。

各地の仏教遺跡と同じように、イトコリに残っているのはヒンズー教の寺院だけだが、多くの仏像などの発掘品が倉庫に保管されている。大きなヒンドゥー寺院の門をくぐると広い空き地と建物があるが、その奥には発掘された石像が収められた倉庫がある。

倉庫に収められている発掘品は、仏像、仏頭、仏塔、そしてヒンドゥー教の神々で、塔や僧院を囲む装飾だったようだ。倉庫には5

インド各地で見られるヒンズー教の修行者。ここイトコリにも



5年前にイトコリを訪れた筆者。
地元民との記念写真

00点もの発掘品が並べられてあり、そのすべてが石でできていて、大きさは30センチから49センチ。

その中に珍しい3本足の石像を見つけた。インド各地でこうした石像をかかなりの数見てきたが、3本足は初めてだった。

これらの発掘品は紀元前3世紀のマウリア朝、5〜8世紀のグプタ朝、8〜12世紀のパラ朝のもので、イトコリが長きにわたる仏教の地であったことを物語っていて、広い空き地の下には巨大な仏教寺院跡があると思われる。

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん。昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有次回。著書に「ブッダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。